

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. **85**
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン



まちづくり協働プラザとは？

NPO法人をはじめとする市民活動団体を育成・支援するために、平成16年1月に、「徳島市市民活力開発センター」が設置されました。現在は「徳島市まちづくり協働プラザ」に改称し、徳島駅前アミコビル7階にて、協働によるまちづくり活動及び市民活動促進のための業務を行なっています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

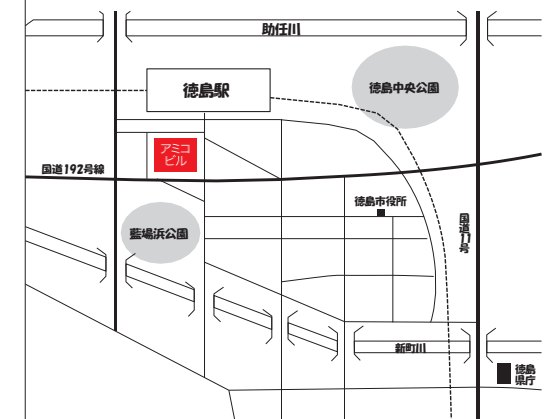
月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始・お盆

連絡先

[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] machipura.tokushima@gmail.com



ACCESS MAP



所在地

〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1丁目5番地
アミコビル東館7階

お車・バイク・自転車でお越しの方

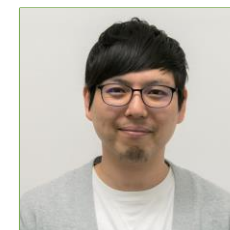
アミコラインパークの駐車場・駐輪場
もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。



自立支援団体 はやぶさ



BG KIDS トクシマ



マネージャー 岸田 侑

助成金申請のサポートや、
NPOと行政、NPOと若者との
マッチングなどに注力しています。
ぜひご利用ください。



事務局長 長谷川 隼

広報誌や会計事務を主に担当
しています。会議室や機材の利
用、お悩み相談でも、いつでも
気軽にお越しください。

PASSPORT.

発行月：2023年3月 号数：85号 発行：徳島市まちづくり協働プラザ
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元である徳島市まちづくり協働プラザ（
088-611-3886）までご連絡下さい。

イベント情報大募集！！

PASSPORTへの掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市まちづくり協働プラザの掲示板へ配置させていただく情報を随時募集しております。「取材に来てほしい！」「こんなイベントするよ！」といったお声をお待ちしております！





意外な社会貢献活動？ ゲームが繋ぐ社会との繋がり

ゲームが
社会貢献活動
になる？

まちづくり協働プラザの壁面に映し出された「レトロゲーム」。
ゲームを学びのコンテンツとして提供し、社会貢献活動の一環として活かそう
という『自立支援団体はやぶさ』の活動取材しました。

で、もつとレトロゲームを広めていこうと、定期的にゲームを行う会を開いていたそうです。何故ゲームが好きなのか？ ストーリーやアクション面、使われている音楽やアートの要素、考察をする楽しさなど、その理由は各々違っているようでした。ただ、共通するのは

「ゲームは悪いことばかりじゃない」という想いでしたゲームをきっかけに交流の輪が広がることもあれば、プログラミングへ興味を持つ子もいる。協力の仕方を学んだり、攻略のために試行錯誤を繰り返すことで思考力を磨いたり、学べるものはたくさんある。」そう話すメンバーの言葉からは、一概にゲームを「悪いもの」と決めつけるのではなく、「ゲームとの良い付き合い方」を模索する、そういった活動の理念を感じました。

過程に重きをおく

『自立支援団体はやぶさ』では月に一回、イベントを開催しています。ゲームで学ぼう！と題されたそのイベントでは、冒頭で述べた通り、ゲームをプレイするだけではなく、作戦会議、を行う時間が設けられています。何で勝ったのか？ 何で負けたのか？、話し合いを重

ね、作戦を練り、実践してまた作戦を練り直す。こうした過程を繰り返している中でコミュニケーション能力を育み、考え方を育てていく。実際、プレイが変わっていく様子が目に見えて分かり、できないことができるようになる喜びをみんなで分かち合う光景が見受けられました。

ゲームを社会貢献活動に

『自立支援団体はやぶさ』がこの先目指していく方向性として、ゲームを通して引きこもりに対する社会復帰のきっかけづくりを行いたいそうです。ただし人を集めてゲームをする！というのではなく子どもたちにゲームを通して学びを伝えるボランティアとして、引きこもりの方や不登校の子どもが社会活動に参加できるようにしたいとのこと。純粋にゲームを楽しむ子どもたちと触れ合いながら、運営側の大人との繋がりを持ち、自身の活動領域を広げていく。ゲームは悪いものという概念を覆し、社会貢献活動にしようという『自立支援団体はやぶさ』の活動、これから益々楽しい企画を開催予定とのことなので、ぜひ一度Twitterを覗いてみてください。

ゲームは悪いもの？

近年、テレビゲームやスマホアプリゲーム等、多様なゲームが開発され、年齢問わず多くの人が手軽にゲームを楽しめるようになりました。一方でゲームへの依存が問題視される声もあり、特に子どもの教育についての悪影響が心配されています。そんな中ゲームを社会貢献活動に活かしたいという、一風変わった発想の団体が、まちづくり協働プラザを訪れました。

そして2023年1月、日自立支援団体はやぶさが主催するイベント「ゲームで学ぼう！」が開催されました。会場のスクリーンにはレトロゲームが映し出されており、集まっていた5名の子どもたちは何やら真剣な表情で会議をしています。その後、子どもたちはコントローラーを握り、ゲームをプレイ。そしてまた会議をするということを繰り返していました。ゲームをしているときの楽しそうな声、そしてそのあとに参加者同士で何かを考え合っている雰囲気ギャップが、とても印象に残りました。

ゲームから学べるもの

取材に応じてくださったのは、主催団体のメンバー4人。レトロゲームが好き

↑子供たちの様子



↑取材を受けてくれた主催者の皆さん



INFORMATION

自立支援団体 はやぶさ

ゲームを社会福祉に活用し、ゲーム依存や引きこもり、不登校の子どもへの支援を行い、家族に向けた聞き取りや案内、共通の話題を持てるコミュニティを提供する団体。

活動や企画、その他のお問い合わせはTwitterのDMかお電話にて問い合わせください。



Twitter

[TEL]
050-3778-6364



「ボードゲーム×地域貢献」 地域と子どもを繋ぐ居場所づくり

ワクワクする
活動を
届けたい！

2022年10月1日に立ち上がった子ども向け室内ゲーム普及ボランティア団体『BG KIDS トクシマ』。遊びを通して地域の人々と子どもを繋ぎ、コミュニケーションを通して自然と社会性を育んでいく、その活動の背景を取材しました。

ボードゲーム インストラクター養成

ムだけではなく、カードゲームや謎解き、人狼マナーミステリーRPGなど様々な室内ゲームを各々が主催し、コミュニティ内に日程が共有されます。現在ではコミュニケーションへの登録者数が150人を超えるほどになっており、その中から「子ども向けボードゲーム会をやりたい！」というメンバーが集まって『BG KIDS トクシマ』が誕生しました。

子どもとボードゲーム

ボードゲーム会をしていたある日のこと。その日参加者の子どもが「こんな（アナログゲームやりたくない）」と、特に関心も持たず、持ち込んだ携帯ゲーム機で遊び始めたそうです。しかし、そのすぐそばで大人たちが楽しそうにボードゲームをしているうちに、その子も覗いてくるようになり、試みに一緒にやってみたら「めっちゃおもしろい！まだ帰りたい！」と、帰るのを嫌がるほど楽しんでくれたそうです。運営する大人側は「やったぞ！」と思わずガッツポーズ。ボードゲームには必ず「ルール」があり、自分たちがより楽しむためにルールを守ることも重要となります。また、ボードゲームの多くはコミュニケーションを必然的にとるようになっている。互いに良いプレイを褒め合うような雰囲気づくりをおこなうことで、自然と社会性を育めるものになっているそうです。



ボードゲームは数えきれないほどの種類があり、説明書も分かりにくく、折角購入しても放置されてしまうこともあると言います。『BG KIDS トクシマ』では学童クラブや小学校での出張ゲーム会を行ったり、ファミリーボードゲーム体験イベントを行ったり、各地でボードゲームの楽しさを伝えています。ルールが分かる人のもとで、実際にやってみるのが一番分かりやすい。一度体験して気に入ったものを買ったという感じで、私たちのコミュニティを活用してもらえら」と中西さんは言います。現在はボードゲームインストラクターを養成するためのワークショップを開催しており、教育や地域の居場所づくりにボードゲームを活用する人材を育成していくための「マドモアゼル」でも、少しでも興味がある方は、初めての人の人でも気軽に参加できるので、周囲の大人も一緒に遊びに行ってみてはいかがでしょうか。

INFORMATION

BG KIDS トクシマ

徳島の子供たちにボードゲーム・カードゲーム・謎解きなどの室内ゲームの楽しさを広めるボランティア団体です。

徳島県内で出張ゲーム会、教育・福祉関係者向けのインストラクター養成ワークショップを開催しています。出張ゲーム会、大人向けボードゲーム活用研修会などのご要望は、各SNSサイトからお気軽にご相談ください。



Instagram



Twitter

SNS アカウントは
コチラ

ボードゲームの魅力

取材に応じてくださったのは、『BG KIDS トクシマ』の代表である中西さん。ボードゲームの魅力について尋ねると「一緒に遊んだ人とすぐに仲良くなれる！」と答えてくれました。

中西さんは「子どもが遊ぶ用」と思っ、てボードゲームを購入したそうなのですが、自分がすっかりボードゲームのおもしろさにはまってしまい、気付けば家に数十種類ものボードゲームが集まってしまったそうです。そこでファミリー向けにボードゲーム会を開こう！」と思い至ったそうです。

『BG KIDS トクシマ』 結成の経緯

新型コロナウイルスの影響でなかなか外出しにくい環境が続く中、屋内で楽しめるコンテナツの需要が高まっていました。そこで、中西さんは消費などに十分配慮した上で、コミュニケーションにてボードゲームの遊び方を教える会を開催し、その様子SNSで発信したそうです。すると僕らもそういう活動してる！」「みんなでやりいけど人集めに困ってる」など、たくさんさんのアクションが返ってきました。そんな声を集め、一つのコミュニティとして結成されたのが『徳島ゲームストーリー』です。ボードゲ



127名の協働推進員が参加し、真剣に講義へ臨んでくれました。

NEWS 01 徳島市職員にむけた協働講座

令和5年2月15日、徳島市各課の協働推進員にむけて「SDGsの必要性と協働の重要性に関する講義」を実施しました。今後の地域自治のあり方として市が多様な主体との連携・パートナーシップに注力するにあたって、実際の現場で協働・連携するためには「目的意識の共有」が不可欠です。本講義では官民連携の材料となる「SDGs」をもとに講座を行い、SDGsの17番「パートナーシップで目標を達成しよう」の本質について解説し、他のセクターと手を取り合うことの重要性を説明しました。



1成果報告会には徳島市長もコメンテーターとして登壇し、行政やまちづくりの視点から助言をいただきました。

NEWS 02 ソーシャルビジネスチャレンジ 成果報告会

令和5年2月26日、「ソーシャルビジネスチャレンジ(SBC)」の成果報告会が行われました。SBCとは令和4年6月から始まった取り組みであり、大学生や社会人が集まり、チームに分かれてまちの課題解決プランを考えてきました。成果報告会では各チームともにプランの考察や実施、検証までを具体的に発表しており、既にマスメディアで活動が取り上げられたものもありました。来年度も継続してこのことだったので、実現に向けて引き続き支援していきます。

オンライン会議のコツ

令和5年3月18日、とくしま県民活動プラザにて「オンライン会議を味方につけよう！forNPO」という講座が開催されました。講師を務めたのは徳島市まちづくり協働プラザマネージャーの岸田侑。ここでは当日お話しした内容からいくつかの“コツ”を抜粋してお届けします。



① ルールの明示

例を挙げると、リアクションの取り方です。進行役が何かを問いかけたとき、手で大きく丸をつくって画面に映るといったように、視覚的に反応が分かるようになる。

オンライン会議で困ったこと、という話を理解されているのかからないいつも微妙な間が空いてしまつた等々、様々な意見があるかと思えます。オンライン会議において重要となるのが進行役の存在です。対面と違って複数の会議が同時に起こりえないオンライン会議の場において、仕切りを務める進行役の存在は不可欠。ここでは、進行役にお勧めしたい3つのコツを紹介いたします。

オンライン会議の難しい点

オンライン会議で困ったこと、という話を理解されているのかからないいつも微妙な間が空いてしまつた等々、様々な意見があるかと思えます。オンライン会議において重要となるのが進行役の存在です。対面と違って複数の会議が同時に起こりえないオンライン会議の場において、仕切りを務める進行役の存在は不可欠。ここでは、進行役にお勧めしたい3つのコツを紹介いたします。

② 少人数に区切る
オンライン上では多人数での話し合いは困難です。そこでブレイクアウトルームという機能を用いるなどして「今から15分間、この議題について3人ずつに分かれて議論してください」といったように、少人数に分かれて議論するのがお勧めです。時間がきたら再度全体で集まり、各チームの代表がチームの意見をまとめて共有してもらうと、全体の意見を拾いやすくなります。

③ 事務局の設置

オンライン会議にはトラブルがつきものです。音声が出ない、映像が映らない、ルームに入れない等、そういったトラブルに進行役が対応しているのは、会議が進みません。そこで、人事務局役を置き、トラブル対応やチャットへの対応を集約することで場の運営がスムーズになります。

もし参加者側になったら

今回は進行役目線のことを書きましたが、オンライン会議には参加者の協力が必須です。参加する側になったときにはぜひ進行役の方に向けて、大げさすぎるぐらいのリアクションをとるなどを試してみてください。他にも、もし詳細の困りごとや疑問点があれば、ぜひまちづくり協働プラザへご相談ください。



オンライン会議の ファシリは大変？

長谷川 隼

元々は行政に勤めていたが、2016年に徳島市市民活力開発センターへ転職。広報制作や会計事務を担当し、現在は事務局長として相談対応や業務管理を行っている。